



世界医師会とわれわれの果たす役割

副会長 長瀬 清

本年10月英国エジンバラにおいて第52回世界医師会(WMA)総会が開催された。北海道医師会からも柳内・小柳両常任理事がこれに参加している。

今回のWMA総会での特筆すべき点は、日本医師会坪井栄孝会長が1975(昭和50)年の武見太郎以来2人目の世界医師会会長に選出されたことと、ヘルシンキ宣言修正案が紆余曲折の末、合意に達し宣言として採択されたことである。

この度このヘルシンキ宣言修正全文の日本語訳が公表された。多くの先生が目にとられ、その内容に首肯されたことと思う。

これは、1997年11月ドイツのハンブルグで開催された第49回WMA総会において、アメリカ医師会(AMA)からヘルシンキ宣言修正案が提出されたことを発端とする。ヘルシンキ宣言は各国の倫理委員会の基本的事項として取り入れられている医学、生物学的研究の基本となるものである。AMAは医薬品開発を世界に先がけ進める上で修正の必要性を強く主張したと考えられ、賛否区々で意見の纏まりに時間を要した。結局ヒトを対象とする医学研究が極めて慎重に行われるべきことで合意している。今総会での合意が危ぶまれていたが、良く纏めたものと評価されている。

世界医師会の発祥は、1926年パリで会合が開かれ結成された国際医師協会(APIMと略称された)にはじまる。その後、活動が停止されていたが、第二次大戦後の1947年9月パリにおいて第1回総会が開かれ世界医師会(WMA)が発足した。日本は1951(昭和26)年これに入会、今日に至っている。現在71カ国の医師会が参加し、定款に

示された目的「医学教育、医学・医術および医の倫理における国際的水準を高め、世界のすべての人々を対象としたヘルスケアの実現に努めながら、人類に奉仕すること」を掲げ活動している。

WMAは2000年10月までに115の宣言、声明を発表している。これは法的なしぼりはないが、各国はこれを医療界の指標としている。

これまでの宣言の中で特に重要なものとしては、1948年ジュネーブでの医師の倫理規定(第22、35、46回総会で修正)、1949年ロンドンでの医の倫理の国際綱領(第22、35回総会で修正)、1964年ヘルシンキでのヒトを対象とする医学研究の倫理的原則(第29、35、41、48回総会で修正)がある。その他、患者の権利擁護(1981年リスボン)、環境と人口の問題、医学教育、ヒト・ゲノム・プロジェクト、臓器移植等多数の問題についての宣言・声明がなされている。

これらは第二次世界大戦でのナチス・ドイツの行った非人道的行為に対する連合国側によるニュールンベルグ裁判でのニュールンベルグ綱領がその基となっている。

戦後の医学・医療の進歩、発展は目覚ましく、特に最近では1997年英国のロスリン研究所でのクローン羊の誕生、本年のトピックスであるヒト・ゲノムの解析が終了したことに伴い、今後の医学の発展において倫理的問題が極めて重大な位置を占めるものと考えられる。人命を預かる医師として責任重大であり、世界医師会の果たす役割に関心を持ち係わっていかなければならない。21世紀のはじまりにあたり世界医師会は大きな役割をになっている。